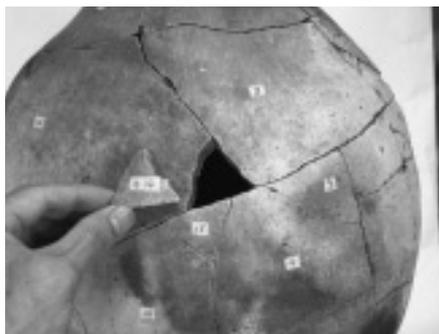


※この修復事業には(財)朝日新聞文化財団より助成を受けています



写真提供：府中工房 堀江武史氏

8月中旬の時点でバラバラの破片に分解され、クリーニングと割れ口の補強を施した「いずみ」。1カ月後には、アクリル系の強力な接着剤での接合がほぼ完了しました。

資料館で展示していた時の「いずみ」には、数か所破片のない部分がありました。発掘にあたった鈴木素行さんが土器片を精査したところ、「いずみ」のものと思われる4つの破片を見出しました。今回の修復でそのうちの2片がピタリとはまり、「いずみ」はより完形に近づきました。



「いずみ」接合完了!?

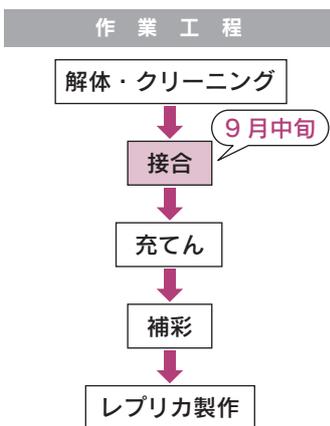
人面付土器

# 「いずみ」

修復中!

②

歴史民俗資料館 ☎52-11450



9月中旬現在、「いずみ」は接合部の微調整中。この作業が終了すれば、接合面のすき間や欠損部に補強のための詰めものをする「充てん」の段階へと進みます。次回はこの作業についてお知らせします。

土器修復師の堀江さんのお話では、「いずみ」の接合作業は3日程でできるけれど、大変なのはこれから」とのこと。2千年もの間土の中にあつた土器は、割れ目が弱ってすり減ってしまったたり、1つずつの破片に土の圧力によるゆがみが生じているので、接合した部分にすき間やわずかな段差が、どうしてもできてしまうのだそうです。接合部分を指の感触で確認しながら、すき間や段差を最小限にするよう、接着剤を薬剤で柔らかくしつつ、1つの破片のゆがみのために周囲の破片も微調整していく作業は、完成までになつて2週間はかかるとのこと。気の抜けない繊細な作業です。



2千年のゆがみを  
微調整

## 知って得する 消費者情報③

### 震災を口実に訪問する貴金属の買い取りサービスにご注意を!

震災後、「売却代金を義援金の一部にするので貴金属を提供してほしい」などといった貴金属の買い取りサービスに関する相談が、全国の消費生活センターに寄せられています。震災を口実に買い取りの勧誘を行い、「震災被害の役に立てば」という消費者の親切心につけこむ悪質なケースが見られるようになってきました。

自宅を訪問した業者に貴金属等を渡してしまうと、返品を求めても取り返せないことがほとんどです。くれぐれもご注意ください。

### ひとこと助言

◎買い取ってもらうつもりが無いなら毅然と断る。  
契約するかどうか十分に検討しましょう。

◎相手がどのような業者なのか確認する。  
契約前に、業者の住所や電話番号、古物商許可証等の提示を求め、内容を確認し書き留めておきましょう。

◎一人では対処しない。  
来訪した業者に買い取りを依頼する場合は、家族や近所の方に同席してもらうようにしましょう。

◎買い取り条件などが明記された書類をもらうこと。

困った時は消費生活センターにご相談ください。

- 茨城県消費生活センター ☎029-225-6445
- 常陸大宮市消費生活センター ☎52-2185(直通)(本庁商工観光課内)

